

## (サシバの里自然学校 校長)

## き物好きな子どもたち

保全×遊び×教育の自然学校と

ですよ!」

子ども向けの環境教育や普及・啓 境の保全に取組む父・孝一さんと、 らだ。長年猛禽類の調査や自然環 校が保全を柱の1つに据えているか 理由の1つは、サシバの里自然学 と、とにかく個性派ぞろい。その 細部まで表現された絵を描いたり ワークショップを主催してみたり たちのこと。グッズを自作したり は、自然学校に参加する子ども 目を輝かせて隼さんが語ったの

がある。そこを拠点として活動す 長の遠藤隼さん。自然を通した るのが、サシバの里自然学校・校 景の中に、築15年の大きな古民家 青々とした田んぼの広がる里山風 な〝生き物好き〟のレベルが高いん ·人』づくりの仕事をしている。 「うちにくる子どもたちは、みん 開設した。 教育」の3本柱を持つ自然学校を 活かし、5年前に「保全×遊び× 発を行う隼さんがお互いの特技を

繁殖地がある、栃木県市貝町

日本でも屈指の鷹・サシバの

という疑問が常にあったという。 屋を目指しているのだろうか…」 し心の中には、「自分はいったい何 さんの人や文化と出会った。しか の後自分の世界観を広げるため、 自転車世界ひとり旅へ出発。たく 環境教育の手法を身につけた。そ アース自然学校で子どもたちへの チャレンジングな生き方をする隼 大学卒業後の隼さんは、ホール

> たことが、今の隼さんを作り上げ 気づきと孝一さんの活動を見て育っ イ」、子ども心に思った。これらの 「これが川にいたら日本の魚がヤバ の獰猛さを目の当たりにした。 したり。その頃、ブラックバス の合間に探検したり、焚火を ども』の1人だった。釣り 隼さんも、"生き物好きな子 ほぼ毎週友達と釣りに行く のぼる。出身は宇都宮市

することの出来る場 出会い、それらに愛着を持って接 「子どもたちが自然や生き物と

している。 誇りをもって活動 まっすぐ前を見て、 今の隼さんは 思っています」

さんの原点は、子ども時代にさか



ているのだろう。